



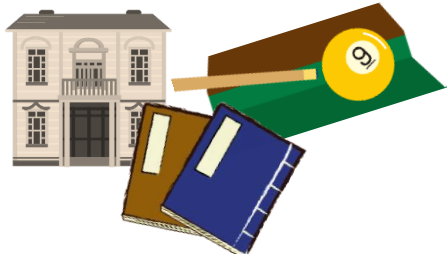
皆さん、喫茶店はお好きですか？私はゆったりとした時間が過ごせるので大好きです。4月3日は喫茶店の日です。これは1888年（明治21年）のこの日に、東京上野に日本初の喫茶店「可否茶館（かひいさかん）」が開業したことに由来します。そんな喫茶店の豆知識やおすすめの喫茶店をご紹介します。

日本初の喫茶店

「可否茶館」は2階建ての西洋館で、2階が喫茶スペース、1階には**国内外の書籍や雑誌、ビリヤードやランプなどの娯楽設備が置いてありました**。鹿鳴館のような上流階級のための社交場ではなく、**一般市民や学生がコーヒーを飲みながら知識を吸収し文化交流をすることが目的**だったそうです。

しかしそばが8厘~1銭のこの時代に、コーヒーの値段が1銭5厘もしたの
は高すぎました。そのため、「可否茶館」はたった4年で廃業。

それでも、その後の喫茶店文化に大きな影響を与えました。



カフェと喫茶店の違い

カフェと喫茶店の違いはイメージの違いだと思いませんか？
食品営業許可を申請する際に、**飲食店営業許可**を取得しているのが「**カフェ**」、**喫茶店営業許可**を取得しているのが「**喫茶店**」です。喫茶店営業許可の方が比較的安易に取得できますが、**アルコール以外の飲み物やトースト等の加熱処理のみの軽食しか提供できません**。一方、飲食店営業許可は設備の設置義務が多い分、**アルコールや店内で調理した食事を提供することができます**。

アルコールや食事を出す喫茶店もありますが、それは「飲食店営業許可」を取得しているお店です。実は**店名に「喫茶店」「カフェ」の名称をつけることに規制はなく**、営業許可の差にかかわらず自由に命名することができます。



~カフェと喫茶店の歩み~

明治40年代に入ると「カフェー」を冠するお店が続々とオープンしました。当初は可否茶館と同じく文化交流が目的のお店が多かったものの、昭和に入ると料理・お酒の提供や、女性が給仕をするバーやキャバレーのような「夜のお店」として発展し、政府の取締りが行われるほど盛況を招きました。その中でもコーヒーなどの飲み物や軽食しか提供しないお店も根強く人気があり、「喫茶店」「純喫茶」と呼ばれるようになりました。

神戸元町・おすすめ喫茶店

マルオー

常連さんが多いアットホームな雰囲気のお店。名物は「**ウィリアム**」という**リンゴがまるまる入ったパイ**。温めて出してくれるので、リンゴの甘い香りが口いっぱい広がります。店内のケーキはこの「ウィリアム」も含めて、すべて**テイクアウト**できます。



ウィリアム
700円

Address：神戸市中央区元町通3丁目9-22

元町 サントス

落ち着いた雰囲気の2階建てのお店。人気商品は鉄板で焼きあげる**昔ながらのふわふわホットケーキ**です。素朴な甘さの生地にバターの塩加減がととも程よく、懐かしい気持ちになります。ランチメニューも豊富で**スパゲッティやピラフ**も楽しむことができます。



ホットケーキセット
700円

Address：神戸市中央区元町通2丁目3-12

「あえて」全席喫煙可能な喫茶店

近年「改正健康増進法」のため、喫煙可能な喫茶店が減っています。そんな中「**全席喫煙可能**」な喫茶店「**THE SMOKIST COFFEE**」が、去年11月に都内で3店舗オープンしました。

街中で喫煙ができる場所を設けることで、非喫煙者の受動喫煙の機会を減らすという逆転の発想。店内に高性能の換気システムも設置し、**滞在時間に制限を設ける**など、喫煙者自身の健康にも配慮しています。

「**大人の嗜好品を愉しむ場所**」をコンセプトに、コーヒーとタバコを嗜む文化を大切に一息つける場所を提供しています。今の時代らしい、面白い取り組みです。

